



ホームシアター用5.1chスピーカシステム

NS-P210

取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、ホームシアター用5.1chスピーカシステム NS-P210をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

NS-P210の優れた性能を十分に発揮させるとともに、未永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用前に、必ずお読みくださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、保証書とともに大切に保管してください。

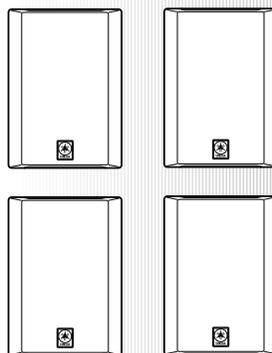
本システムは以下の製品で構成されています。

メイン・リア用スピーカ (NX-210P) X 4本

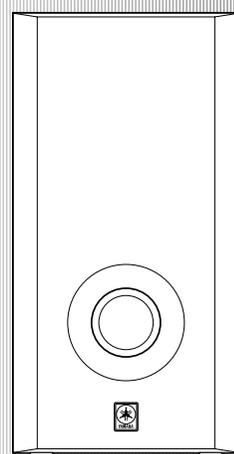
センタースピーカ (NX-C210) X 1本

スーパーウーファ (SW-P201) X 1本

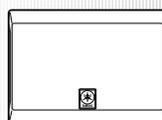
【NX-210P】



【SW-P201】



【NX-C210】



本製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

目次

特長.....	2	スーパーウーファの使い方.....	16
安全上のご注意.....	3	各部の名称とはたらき.....	16
スピーカの置きかた.....	8	オートスタンバイ機能を はたらかせる.....	16
スピーカ取り付け金具の使い方.....	9	音量バランスの調節.....	17
接続のしかた.....	12	故障かなと思ったら.....	18
基本的な接続のしかた.....	12	仕様.....	19
スーパーウーファのいろいろな 接続方法.....	13	ヤマハホットライン サービスネットワーク.....	裏表紙
スピーカコードのつなぎかた.....	15		

特長

ホームシアターサウンド

5.1チャンネルホームシアターの音場再生用に設計されたスピーカセットです。メイン、センターおよびリアに同タイプのスピーカを採用。各スピーカ間の音質バランスを均一に保ち、自然な音のつながりを発揮します。重低音の再生にはスーパーウーファを採用し、迫力あるシアターサウンドをお聴かせします。また、スーパーウーファと各スピーカ間の音のつながりは、メーカー初期設定により最適に調整されています。

スーパーウーファには豊かな重低音を再生する、アドバンスドヤマハ アクティブサーボテクノロジー  搭載

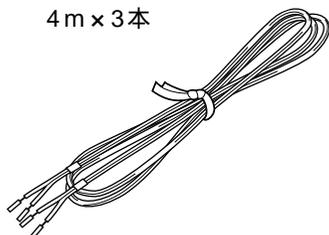
スーパーウーファの電源を自動でオン/オフ

オートスタンバイ/感度スイッチの設定により、スーパーウーファの電源を自動でオン/オフできます。主電源スイッチを押す手間が省けるだけでなく、省エネにもつながります。

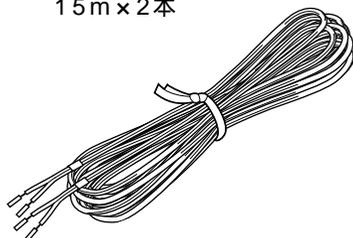
付属品がすべてそろっているか、確認してください。

スピーカコード

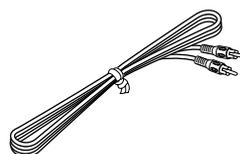
4m × 3本



15m × 2本

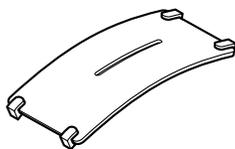


オーディオ接続コード
(1ピン、3m × 1本)



スピーカ取り付け部品

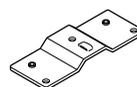
Aタイプ × 3
(ブラケット)



Bタイプ × 2
(ウォールブラケット)



Cタイプ × 5
(ブラケット)



ネジ (8本)



蝶ネジ (2本)



安全上のご注意

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例



記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。



分解禁止

⊙記号は禁止の行為であることを告げるものです。



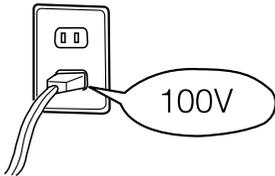
記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



警告

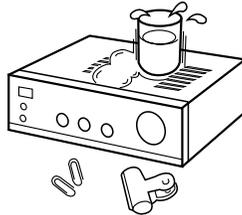
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ⊙ 電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない



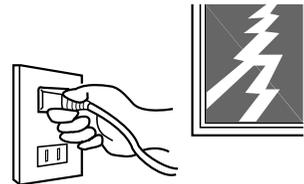
火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。

- ⊙ 水を入れたり、ぬらさない



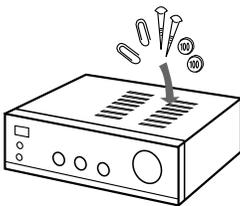
火災・感電の原因となります。本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。

- ⊙ 雷が鳴っているときは、アンテナ線や電源プラグに触れない



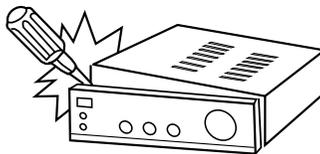
感電の原因となります。

- ⊙ 通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしない



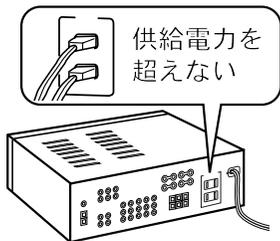
火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- ⊙ 分解・改造を絶対しない
分解禁止
(キャビネットをはずすことも含む)



火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

- ⊙ 供給電力を超える消費電力の機器を、電源供給コンセントに接続しない



火災の原因となります。接続機器の消費電力の合計が本機背面に表示されている供給電力を超えないようにしてください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器(電熱器具、ヘアドライヤー、電子レンジなど)は接続しないでください。

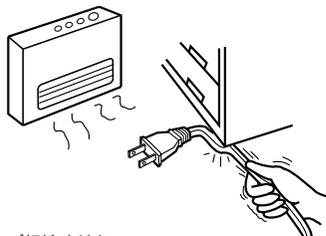


警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

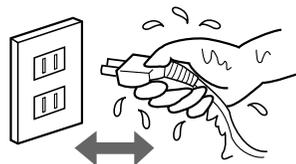
⊘ 電源コード・プラグを破損するようなことをしない

(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っばる、束ねる、重いものをのせるなどしない)



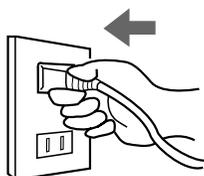
火災・感電の原因となります。
コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

⊘ 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



感電の原因となります。

❗ 電源プラグは根元まで確実に差し込む



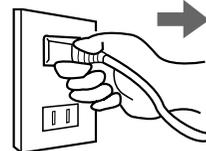
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。
抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っばらないでください。
傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

❗ 電源プラグのほこりなどは定期的にとる



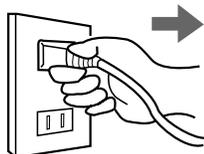
プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。
電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

⚠ 機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



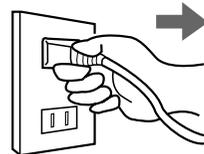
販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 煙が出たり変なにおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

⚠ 落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く

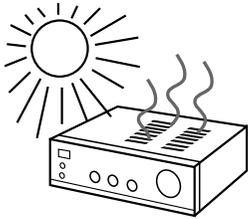


そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- ⊘ 直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない



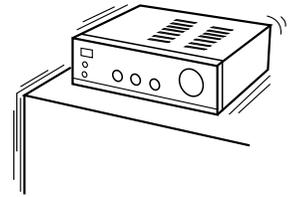
キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となります。

- ⊘ 湿気やほこりの多い場所に置かない



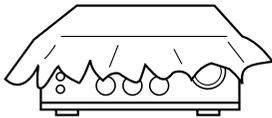
火災・感電の原因となります。

- ⊘ 振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

- ⊘ 通風孔をふさがない



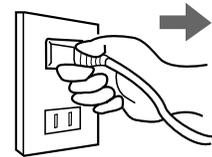
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となりますので、次の点に注意してください。テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。

- ⚠ 放熱をよくするために他の機器との間は少し離して置く



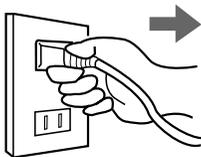
火災・故障の原因となります。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、左右および背面から10cm以上のすきまを開けてください。

- 🔌 各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する



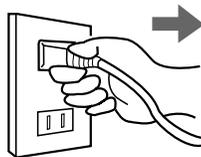
各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

- 🔌 移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す



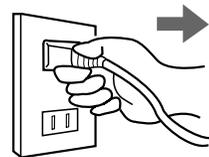
コードが傷つくと火災・感電の原因となります。

- 🔌 お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く



感電の原因となります。

- 🔌 長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く



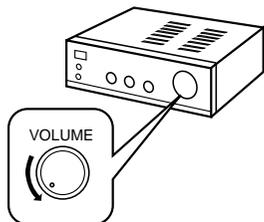
火災の原因となることがあります。



注意

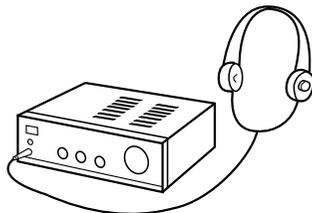
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- ⚠ 電源を入れる前には音量を最小にする



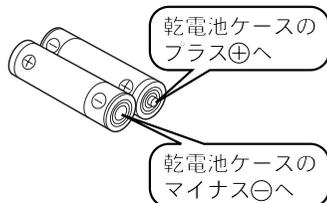
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となります。

- ⊘ ヘッドホンを使うときは、音量を上げすぎない



大きな音で聞くと、聴力障害などの原因となります。

- ⚠ 付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示(プラス \oplus とマイナス \ominus)通りに入れる



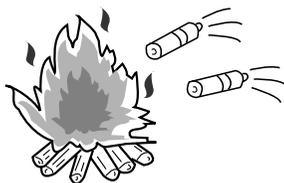
間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- ⊘ 指定以外の乾電池は使用しない



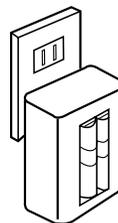
また、種類の違う乾電池、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となります。

- ⊘ 乾電池はショート、分解、加熱、火に入れるなどしない



発熱、液もれ、破裂などを起こし、けが、やけどの原因になります。

- ⊘ 乾電池は充電しない



液もれ、破損などを起こし、けが、やけどの原因になります。

- ⚠ アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

- ⚠ 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。

本機の内部にほこりがたまったまま長い間掃除しないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行くと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

ご使用になる前に、下記の注意事項を必ずお読みください。

本体のつまみ類に無理な力を加えたり、キャビネットに重い物をのせないでください。

テストディスクや電子楽器の信号、極端に歪んだ信号を大きな音で鳴らさないでください。スピーカの破損の原因となります。

本システムは防磁設計となっていますが、コンピュータのモニターやテレビの近くに設置すると画像が歪むことがあります。そのような場合は、離してご使用ください。

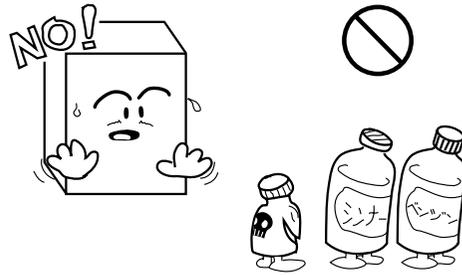
故障と思われるときは、すぐにスーパーウーファ SW-P201の電源プラグをコンセントから抜いてください。

フロッピーディスクやカセットテープなどの磁気媒体を、スピーカの近くに置かないでください。データが破損することがあります。

お手入れには

ふつうの汚れは、軟らかい布で軽く拭き取ってください。汚れがひどいときは、水で薄めた洗剤を布にふくませ、よくしぼって拭き取ってください。そのあと、乾いた布で仕上げてください。

ベンジン、シンナーなどで拭いたりすると、変質したり、塗料が剥げることがありますので使用しないでください。また、接点復活剤はご使用にならないでください。

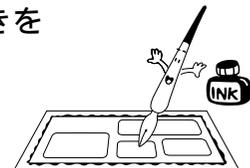


これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

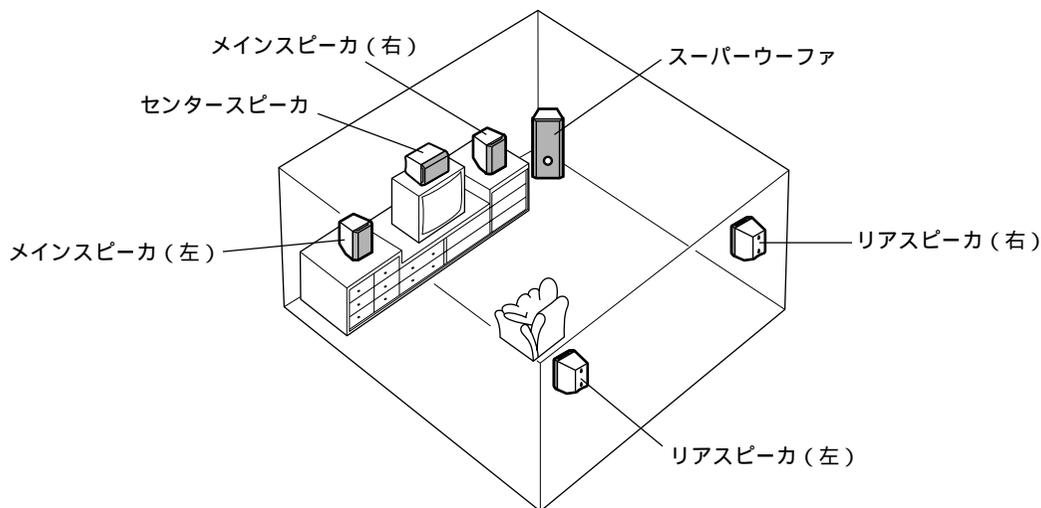
保証書の手続きを



お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、十分ご注意ください。

スピーカの置きかた

本スピーカシステムは、メイン・リア・センター・スーパーウーファの合計6台のスピーカで構成されています。それぞれのスピーカは、通常聴く位置(視聴ポジション)から見て下図のように設置すると、最も効果的な音場が得られるように設計されています。



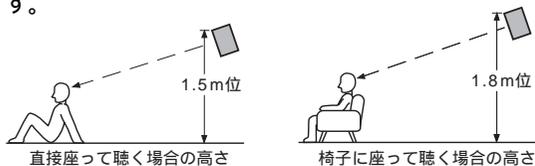
メインスピーカ

テレビの左右に設置します。

リアスピーカ

お部屋の状況に合わせて、床や棚に置いたり、壁に掛けることもできます。

スピーカの高さは、床に直接座って聴く場合床から1.5m位、椅子に座って聴く場合1.8m位が適当です。



センタースピーカ

テレビの上に設置します。

テレビの上に設置できないときは、テレビの下のラック内などできるだけテレビ画面の近くに設置してください。

スーパーウーファ

左右どちらかの外側に設置します。壁の反射を防ぐため、少し内側に向けて置きます。低音の聴こえかたは、スーパーウーファを置く位置や聴く位置によって異なりますので、設置場所を変えてお試しください。

スーパーウーファ設置上のご注意

スーパーウーファは縦/横どちらの向きでも設置できます。本体前面および背面を下にして設置はできません。

スーパーウーファはパワーアンプを内蔵していますので、背面からの放熱を妨げないよう、壁から10cm以上離して設置してください。

大音量で聴くと、家具や窓ガラスが共振したり、スーパーウーファ自体がビリついたりすることがあります。このような場合には、少し音量を下げてください。共振防止には、吸音効果が高い厚手のカーテンなどの使用をおすすめします。また、設置位置を変えてみると、共振が起こりにくくなることもあります。

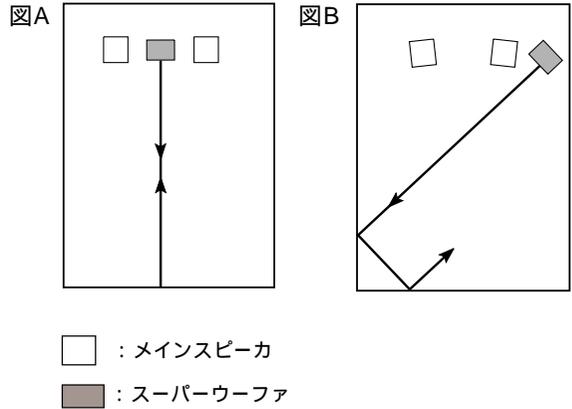
メモ

超低音域は

音楽信号の超低音成分は、波長が長いので、人間の耳ではあまり方向感覚がなく、無指向性に近い特性になります。したがって超低音域ではステレオ感もなくなるため、スーパーウーファは1台でも超低音域再生の効果は得られます。

セッティング時の向きは

図Aのように正面に向けて設置すると、壁で反射した音がスピーカから出てきた音とぶつかり、打ち消し合ってしまう聴こえにくいことがあります。これは部屋の中にできる定在波の影響によるものです。これを避けるため、スーパーウーファは図Bのように斜めに設置すると効果的です。



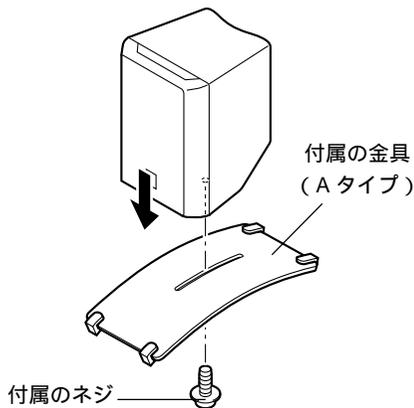
スピーカ取り付け金具の使い方

メインスピーカとセンタースピーカに付属の金具 (Aタイプ) を取り付ける

メインスピーカ、またはセンタースピーカ(またはその両方)に付属の金具Aタイプを取り付けると、スピーカの設置に安定さが増し、転倒防止にも役立ちます。

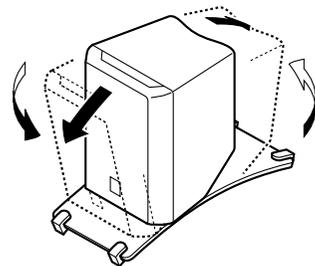
1

付属のネジを使用して、スピーカの底面に金具(Aタイプ)を取り付ける



2

スピーカの角度を調節したあと、ネジを完全にしめる



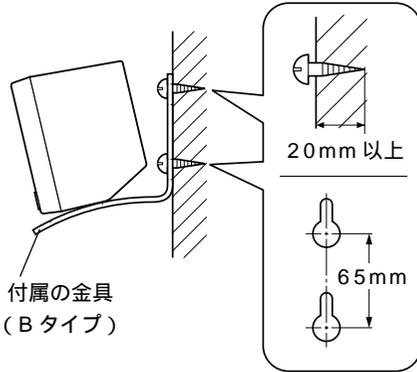
スピーカ取り付け金具の使い方

付属の金具（Bタイプ）を使用してリアスピーカを壁に取り付ける

リアスピーカを壁に掛けて使用する場合は、付属のBタイプ（ウォールブラケット）の金具を使います。

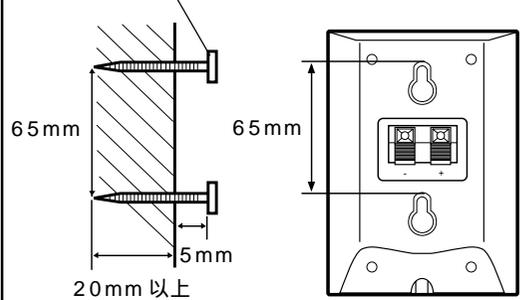
1

リアスピーカを掛ける場所に2本の木ネジ（市販品：直径4mm程度）を取り付け、木ネジに金具を取り付ける
木ネジが、金具の狭い部分に確実に入っていることを確認してください。



スピーカを直接壁に取り付けるときはBタイプの金具を使わずに、壁に2本の木ネジを取り付け、スピーカ背面の穴を利用して壁に掛けることもできます。

直径4～5mm程度
の木ネジ（市販品）

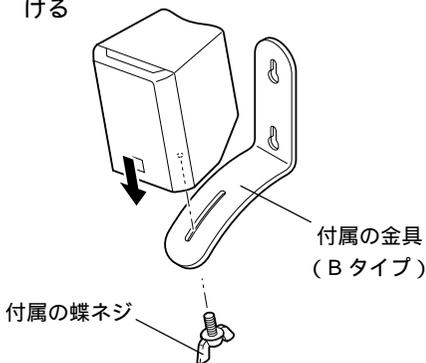


注意!

取り付け後は、スピーカが確実に固定されているか確認してください。

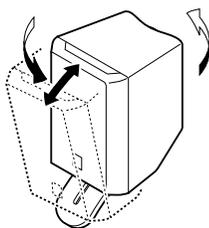
2

付属の蝶ネジで、スピーカを金具に付ける



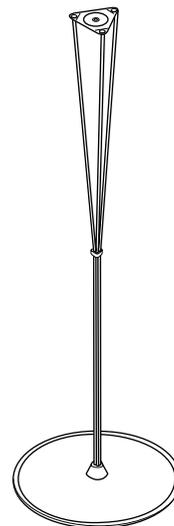
3

スピーカの角度を調節したあと、蝶ネジをしめる



別売ヤマハスピーカスタンドSPS-AV1

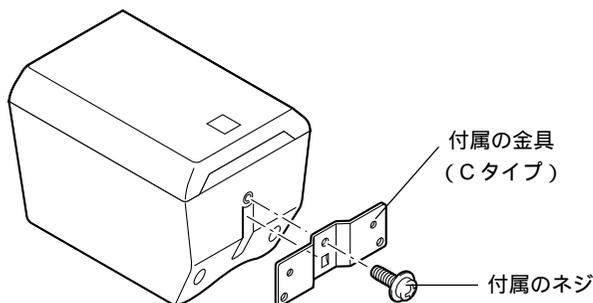
リアスピーカにSPS-AV1を取り付けると、フロアスタンドスピーカとして使えます。（2台1組）



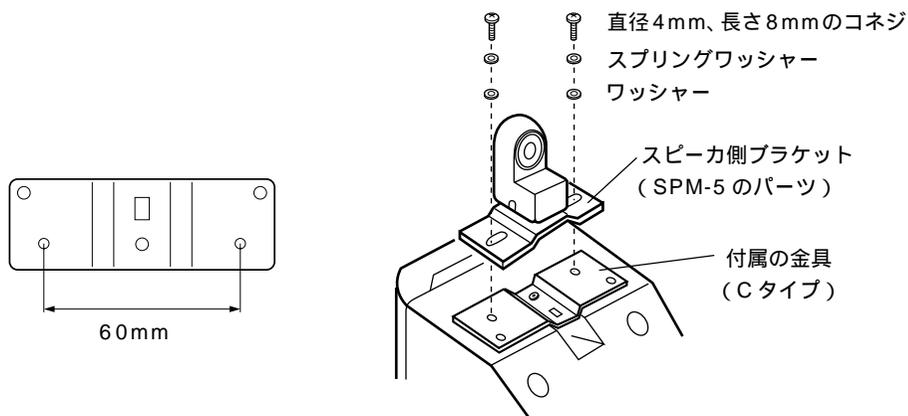
天井吊り用 / 壁掛け用スピーカブラケット(ヤマハSPM-5など)を使用するときは

1

付属のネジで、スピーカ底部に付属の金具(Cタイプ)を取り付ける
金具の凸部分がスピーカ底部の溝に入るようにします。

**2**

付属の金具の穴(60mm間隔)を使い、スピーカ側ブラケットをネジで固定する
直径4mm、長さ8mmのコネジとスプリングワッシャーおよびワッシャーをご用意ください。



取り付けの際は、使用するスピーカスタンドやスピーカブラケットの取扱説明書もあわせてご覧ください。

注意!

(重要なご注意です。必ずお読みください。)

スピーカの重量は1台約0.7kgです。ネジを止める場所には、しっかりとした壁または柱を選んでください。モルタルや化粧ベニア板など、はがれやすい材質の壁には取り付けないでください。ネジが抜けてスピーカが落下するとけがの原因になります。

金具を釘や両面テープなどで取り付けないでください。使用中の振動で釘がゆるんだり、両面テープがはがれ、スピーカが落下するとけがの原因になります。

スピーカコードをスピーカと金具の間に挟まないように注意してください。スピーカコードはスピーカ背面の溝に通してください。

スピーカコードを足や手に引っかけて本機を落下させることのないように、コードは必ず固定してください。

取り付け後は必ず安全性を確認してください。

取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

接続のしかた

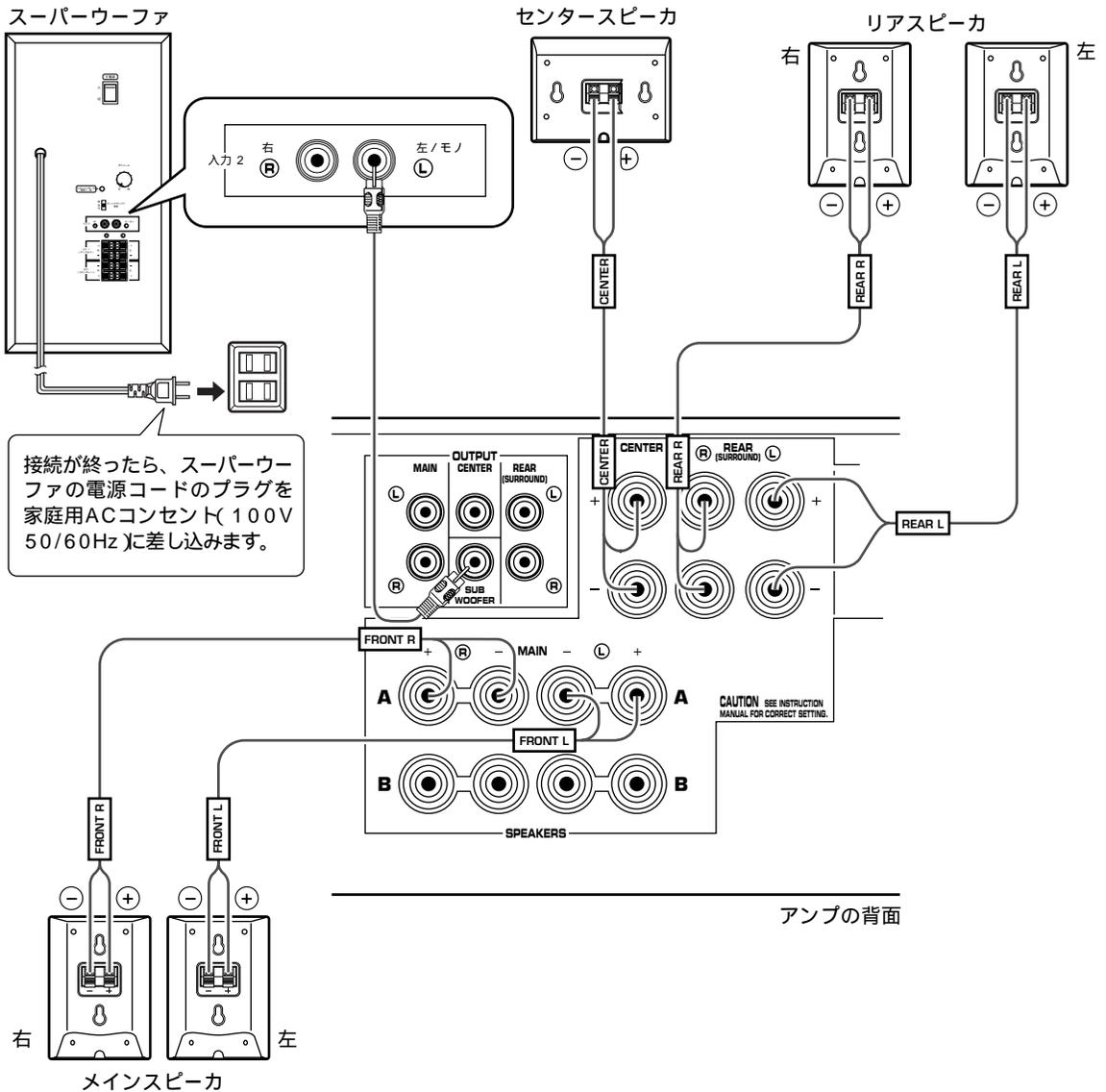
正しい接続のために

接続は、接続する全ての機器の電源コードを、コンセントから外したうえでおこなってください。接続する機器(アンプ、レシーバーなど)によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

アンプによっては端子の色が異なることがあります。その場合は、極性 (+、-) を確認して接続してください。極性を間違えて接続した場合、不自然な再生音になるばかりでなく、故障の原因となりますので注意してください。

接続が終わったら、正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

基本的な接続のしかた



メイン、センター、およびリアスピーカをアンプに接続するには、付属のスピーカコードを使用してください。

* スピーカコードには、識別表示用ラベル(下記参照)が付いています。各コードの識別表示を確認し、それぞれを、対応するスピーカに使用してください。

- FRONT L 左メインスピーカ用
- FRONT R 右メインスピーカ用
- CENTER センタースピーカ用
- REAR L 左リアスピーカ用
- REAR R 右リアスピーカ用

スーパーウーファは、付属のオーディオ接続コードを使用して、アンプのスーパーウーファ出力端子(ピンジャック)に接続してください。(下記、接続方法 1 参照。)

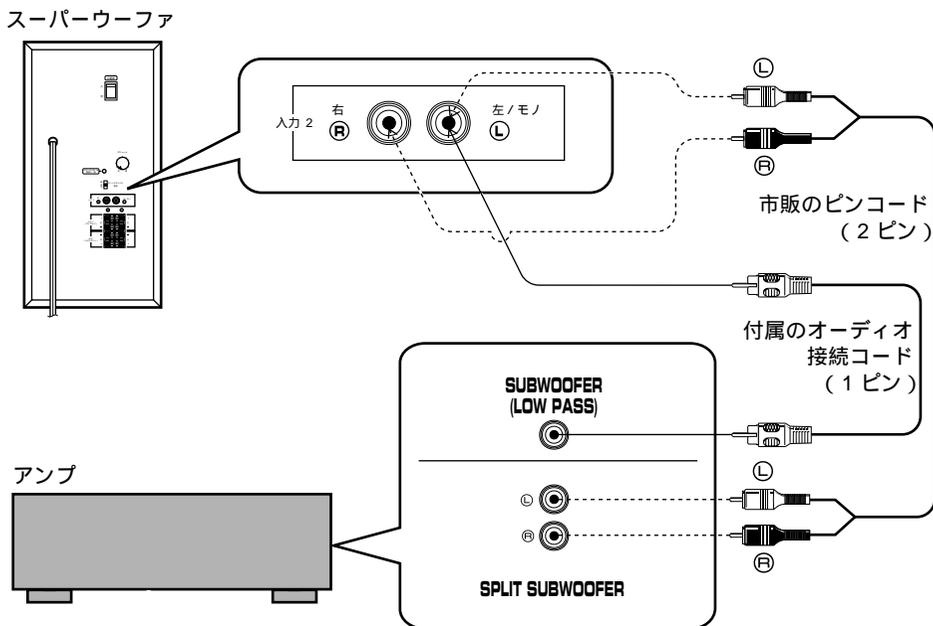
アンプにスーパーウーファ出力端子か、またはそれに代わるライン出力端子がない場合は、アンプのスピーカ出力端子に接続することもできます。(P. 14、接続方法 2 参照。)

スーパーウーファのいろいろな接続方法

1 スーパーウーファをアンプのライン出力端子(ピンジャック)に接続する(基本方法)

付属のオーディオ接続コードを使用して、スーパーウーファ背面の入力2 左/モノ端子をアンプ(またはレシーバーなど)のスーパーウーファ出力端子に接続します。アンプにスーパーウーファ出力端子がない場合は、それに代わるライン出力端子に接続します。

- * アンプのスーパーウーファ出力端子が2チャンネル(L, R)の場合は、スーパーウーファの入力2 左/モノ端子をアンプ側の L 端子へ、入力2 右端子をアンプ側の R 端子へ接続してください。
- * アンプにライン出力端子がない場合は、スーパーウーファをアンプのスピーカ出力端子に接続してください。(P. 14、接続方法 2 参照。)



注意!

スーパーウーファをアンプのPRE OUT端子に接続する場合は、アンプがPRE OUT端子を2系統以上備えているときだけにしてください。アンプにPRE OUT端子が1系統しかない場合は、スーパーウーファをアンプのスピーカ出力端子に接続してください。(P. 14、接続方法 2 参照。)

スーパーウーファをアンプのライン出力端子に接続した場合は、スーパーウーファ背面の出力端子には何も接続しないでください。もし接続しても、接続した機器から音は出ません。

2 スーパーウーファをアンプのスピーカ出力端子に接続する

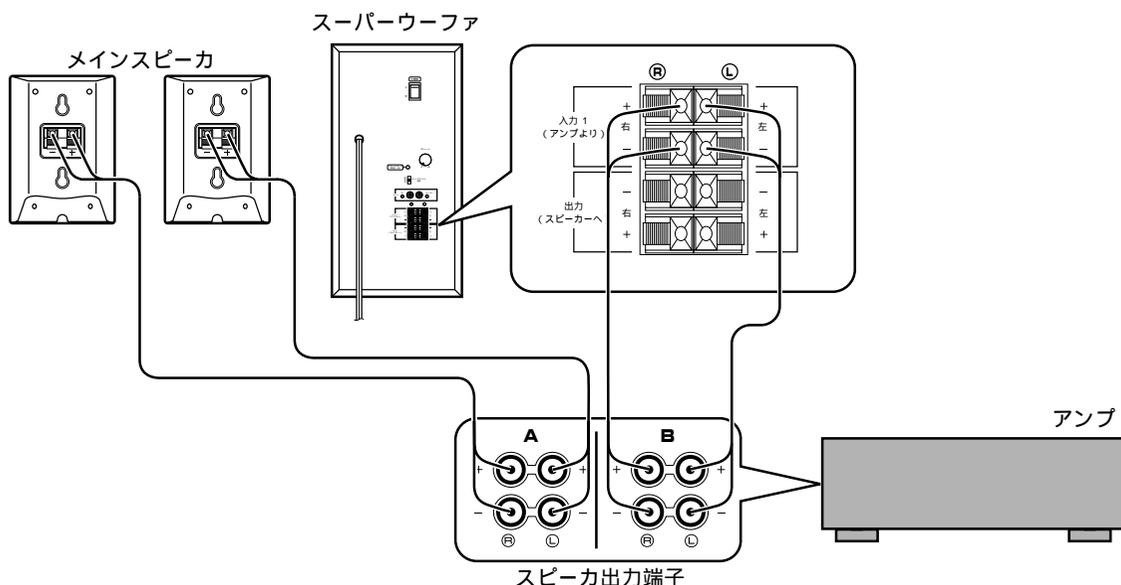
アンプにライン出力端子がない場合は、下記の方法で接続してください。

アンプにスピーカ出力端子が2系統あり、2系統から同時出力が可能な場合

スピーカコードを使用して、スーパーウーファの入力1(アンプより)端子をアンプのスピーカ出力端子に接続します。メインスピーカは、もう一方のスピーカ出力端子に接続します。

アンプ側で、スピーカ出力端子2系統から同時出力するように設定します。

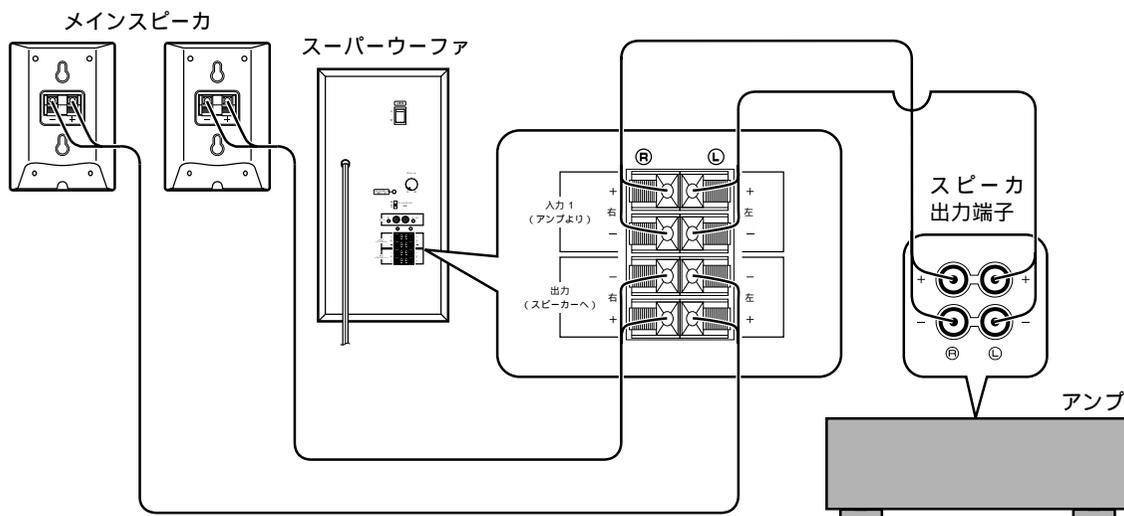
* アンプにスピーカ出力端子が2系統あっても、2系統から同時出力できない場合は、下記、「アンプにスピーカ出力端子が1系統だけある場合」の方法で接続してください。



アンプにスピーカ出力端子が1系統だけある場合

スピーカコードを使用して、スーパーウーファの入力1(アンプより)端子をアンプのスピーカ出力端子に接続します。メインスピーカは、スーパーウーファの出力(スピーカーへ)端子に接続します。

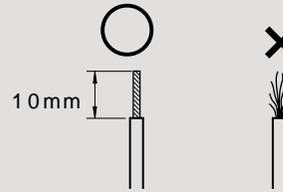
* メインスピーカはスーパーウーファを経由しての接続となりますが、音量、音質に影響を与えることはありません。



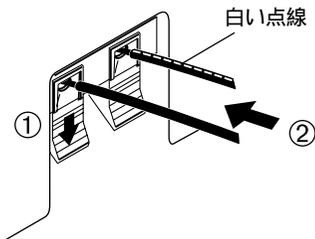
スピーカコードのつなぎかた

接続する前に

スピーカコード先端の絶縁部分(ビニール)を引き抜き、先をよじっておきます。(よじりながらビニールを引き抜くと芯線がバラバラになりません。)



メイン、センター、リアスピーカにつなぐ場合
白い点線入りのコードを右側の+端子(赤)に接続し、もう片方のコードを左側の-端子(黒)に接続します。

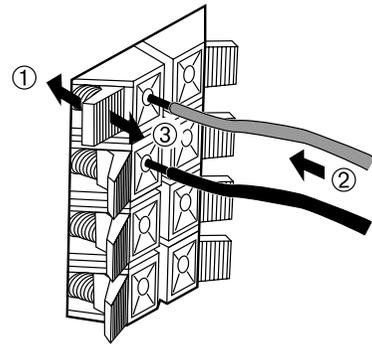


- ① レバーを下に押しながら
- ② 穴にスピーカコードの芯線を差し込み、レバーを戻す。(指を離すとレバーが戻ります。)

接続が終わったら、スピーカコードを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。

スーパーウーファの入力1または出力端子につなぐ場合

片方のコードを右側の+端子(赤)に接続し、もう片方のコードを左側の-端子(黒)に接続します。



- ① レバーを押しながら
- ② 穴にスピーカコードの芯線を差し込み
- ③ レバーを戻す。(指を離すとレバーが戻ります。)

接続が終わったら、スピーカコードを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。

注意!

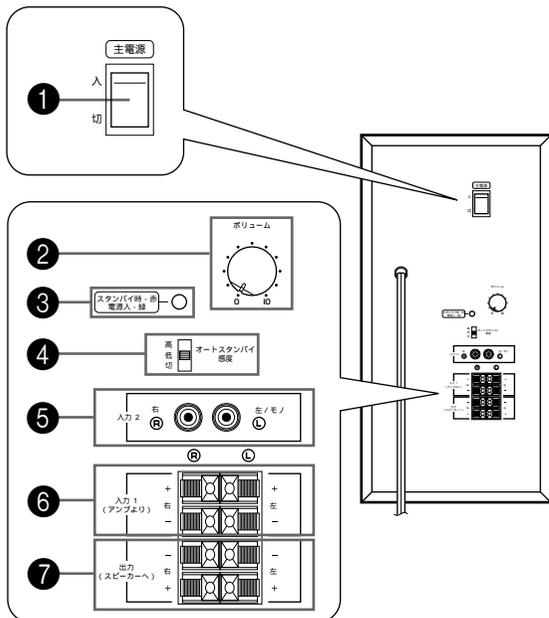
スピーカコードはプラス(+)とマイナス(-)を間違えないように接続してください。

スピーカコードはプラス(+)とマイナス(-)がショート(接触)しないように、しっかりと差し込んでください。しっかり差し込まれていないと、音が出なかったり、雑音が出たり、スピーカをいためる原因となります。

スピーカコードは芯線部分だけを端子の穴に接続します。コードの絶縁部分(ビニール)まで差し込むと音は出ません。スピーカコードは手や足に引っかからないよう、固定してください。

スーパーウーファの使い方

各部の名称とはたらき (スーパーウーファの背面)



① 主電源スイッチ

「入」にするとスーパーウーファの電源が入り、インジケータ(③)が緑色に点灯します。オートスタンバイ機能がはたらいているときは、インジケータ(③)は赤色に点灯します。

② ボリューム

スーパーウーファの音量を調節するつまみです。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

③ インジケータ

電源を入れると緑色に点灯します。ただし、オートスタンバイ機能がはたらいているときは赤色に点灯します。

④ オートスタンバイ / 感度スイッチ

オートスタンバイ機能の入 / 切および感度を切り替えるスイッチです。

オートスタンバイ機能をはたらかせる場合は、「低」または「高」にします。

⑤ 入力端子【入力2】

AVアンプのスーパーウーファ端子またはアンプのライン出力端子(PRE OUTなど)からの信号を入力する端子です。

⑥ 入力端子【入力1】

アンプのスピーカ出力の信号を入力する端子です。

⑦ 出力端子【出力】

⑥の入力端子【入力1】へ入力された信号をそのまま出力します。

メインスピーカを接続する端子です。

オートスタンバイ機能をはたらかせる

オートスタンバイ機能は、オートスタンバイ / 感度スイッチ(④)が「低」または「高」の位置のとき、下記のようにはたらきます。(通常は「低」の位置にします。)

アンプからの入力信号¹がない状態が10分以上続くと、自動的に電源が切れます。

(オートパワーオフ)

* このとき、インジケータ(③)は赤色に点灯します。



再びアンプからの入力信号¹を受けると、自動的に電源が入ります。

(オートパワーオン)

* インジケータ(③)が緑色に点灯します。

メモ

オートスタンバイ機能は主電源スイッチ(①)が「入」になっているときにはたらきます。

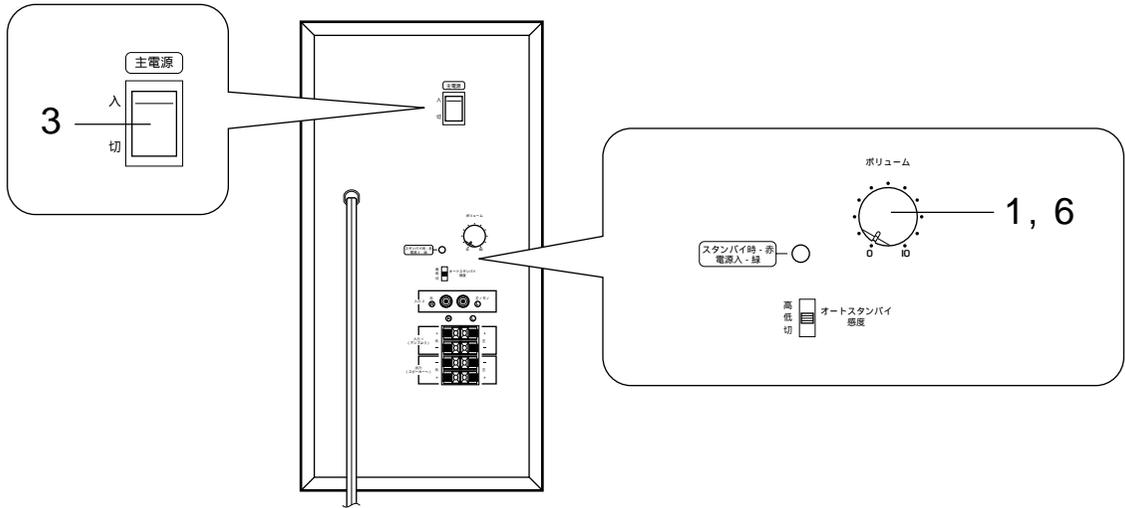
オートスタンバイ機能は、ある一定レベルの信号の有無により動作します。通常、オートスタンバイ / 感度スイッチ(④)が「低」の位置で使用しますが、電源の入 / 切が切り替わりにくい場合は、「高」に切り替えてみてください。「高」にしても改善されない場合は、アンプ側の出力レベルを少し上げてみてください。

使用環境によっては周辺機器からノイズなどの影響を受け、オートスタンバイ機能がはたらいてしまうことがあります。そのようなときは、オートスタンバイ / 感度スイッチ(④)を「切」にして、主電源スイッチ(①)で入 / 切してください。

1: オートスタンバイ機能が感知できる入力信号は、100Hz付近の低音成分です。

音量バランスの調節

接続が完了した後、効果的な低音再生をするために、メインスピーカとスーパーウーファの音が自然につながるように音量バランスを調節します。
一度バランスを調節した後は、アンプ側の音量調節だけで全体の音量を調節できます。

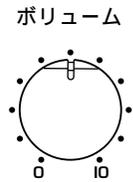


【調節手順】

1. スーパーウーファのボリュームを最小(0)にします。
2. アンプの音量を最小にし、アンプおよび各機器の電源を入れます。
3. スーパーウーファの電源を入れます。
4. 低音を含んでいるソースを再生します。
5. メインスピーカの音量をアンプの音量調節で調節します。通常お聴きになる音量にします。(調節中はアンプのトーンコントロールなどはフラットにしてください。)
6. スーパーウーファのボリュームを徐々に上げていき、メインスピーカとの音量バランスを調整します。
スーパーウーファがないときよりも若干低音が聴こえるくらいにします。

参考

本スピーカセットを5.1チャンネルホームシアター用を使用する場合は、スーパーウーファのボリュームつまみを「5(中央)」の位置にセットすると、最適な音量バランスが得られます。



注意!

アンプのトーンコントロール(BASS, TREBLEなど)やイコライザーを最大にして大出力でご使用になったり、市販のテストディスクなどに入っている20Hz~50Hzのサイン波や特殊な音(電子楽器、レコードプレーヤーの針先のショック音、低音が異常に強調された音など)を連続して大出力で加えることは、スピーカの破損の原因となりますので絶対に行わないでください。また、低音が異常に強調された特殊なディスクでは、本来の音以外に異音が発生する場合があります。これは、スピーカユニット自身の限界を越えた「バタ付き」現象で故障ではありません。そのようなときは、音量を下げてご使用ください。

故障かなと思ったら

下の表にしたがってもう一度確かめてみてください。そのうえで正常に動作しないあるいは下記以外の何か異常が認められる場合は、スーパーウーファの主電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお問い合わせの上サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
スーパーウーファの電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください。
	スーパーウーファの主電源スイッチが「切」になっている。	主電源スイッチを「入」にしてください。
スーパーウーファのオートスタンバイ機能がはたらかない。	オートスタンバイ感度スイッチが「切」になっている。	オートスタンバイ感度スイッチを「低」または「高」にしてください。
	アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。
スーパーウーファのオートスタンバイ機能が突然はたらいてしまう。	周辺機器からのノイズの影響を受けている。	スーパーウーファを周辺機器から離して設置するか、スピーカコードを置く位置を変えてみてください。または、オートスタンバイ感度スイッチを「切」にしてください。
低音が出ない。または小さい。	低音域が少ないソースを再生している。	低音域が入っているソースを再生してください。
	定在波の影響を受けている。	スーパーウーファの設置位置を変えてみてください。
低音のない不自然な再生音で、音像が安定しない。	スピーカーの接続で、LとRや極性(+、-)が合っていない。	スピーカーのLとRや極性(+、-)を正しく接続しなおしてください。
音がでない。	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。
	スーパーウーファのボリュームが最小(0)になっている。	ボリュームを右に回して音量を上げてください。
	アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。
音が割れる。	アンプからの入力信号が大きすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を下げてください。

仕様

メイン/リアスピーカ (NX-210P)

型名	NX-210P
型式	密閉型
スピーカユニット	8cm コーン、防磁型
許容入力	30W
最大入力	100W
インピーダンス	6
再生周波数帯域	140 Hz ~ 20kHz
出力音圧レベル	86 dB/2.83V/ m
寸法(幅)x(高さ)x(奥行き)	100 x 140 x 113mm
重量	0.7kg / 4台

センタースピーカ(NX-C210)

型名	NX-C210
型式	密閉型
スピーカ	8cm コーン、防磁型
許容入力	30W
最大入力	100W
インピーダンス	6
再生周波数帯域	140 Hz ~ 20kHz
出力音圧レベル	96 dB/2.83V/ m
寸法(幅)x(高さ)x(奥行き)	140 x 100 x 112mm
重量	0.7kg

スーパーウーファ(SW-P201)

型名	SW-P201
型式	アドバンスドヤマハ アクティブ サーボテクノロジー方式
スピーカユニット	16cm コーン、防磁型
アンプ出力	50W (100 Hz, 5 , 10% T.H.D.)
入力感度	
入力1	1.2V (100 Hz, 40W/4) L+R
入力2	55 mV (100 Hz, 40W/4) L+R
入力インピーダンス	
入力1	4.7 k
入力2	12 k
再生周波数帯域	30 Hz ~ 200Hz
電源/電圧	AC 100V 50/60Hz
消費電力	32W
寸法(幅)x(高さ)x(奥行き)	200 x 395 x 384mm
重量	9.3kg

付属品

スピーカコード(4m) x 3
スピーカコード(15m) x 2
オーディオ接続コード(1ピン、3m) x 1
スピーカ取り付け部品:
Aタイプ(ブラケット) x 3
Bタイプ(ウォールブラケット) x 2
Cタイプ(ブラケット) x 5
ネジ x 8
蝶ネジ x 2

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

* 「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

* 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を未永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

● 保証期間

お買い上げ日より1年間です。

● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

- ◆ 技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- ◆ 部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- ◆ 出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年（テープデッキは6年）です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

* 品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

● 摩耗部品の交換について

本機には使用年数とともに性能が劣化する摩耗部品（下記参照）が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。

摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ、リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

■ ヤマハ電気音響製品サービス拠点

（ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口）

北海道	〒064-8543	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL(011)512-6108
仙台	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(022)236-0249
首都圏	〒211-0025	川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-3100
浜松	〒435-0048	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL(053)465-6711
名古屋	〒454-0058	名古屋市中区川玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
大阪	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-1-6 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL(06)6877-5262
広島	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14 TEL(082)874-3787
四国	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内 TEL(087)822-3045
九州	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134

愛情点検



★ 永年ご使用の本機の点検を！

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口

AVお客様ご相談センター

TEL(03)5488-5500



ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部 TEL(053)460-3451

品質保証室 TEL(053)460-3405

住所および電話番号は変更になることがあります。